

岡崎市議会議長 様

支出番号

3

会派名

自民清風会

代表者名

磯部 亮次

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政務活動報告書

令和7年12月23日提出

活動年月日	令和7年5月7日（水）～9日（金）	
氏名	加藤義幸 萩野秀範 蜂須賀一郎	
用務先 及び 内容	1 5月7日	用務先 滋賀県 大津市
		内容 ビワイチ推進条例について
	2 5月8日	用務先 熊本県 八代市
		内容 八代観光DMOについて
	3 5月9日	用務先 鹿児島県 霧島市
		内容 霧島市こども館事業について
	4 月 日	用務先
		内容
備考		

政策調査報告書

報告者：蜂須賀一郎

会派名・視察者	自民清風会：加藤義幸 荻野秀範 蜂須賀一郎		
視察日時	令和7年5月7日(水)	視察地	滋賀県大津市
視察先・概要	視察先：滋賀県庁(滋賀県大津市京町四丁目1番1号) 滋賀県：人口139万6250人 世帯数606,417世帯 面積4017.36km ²		
選定理由	滋賀県が中心となり進めている「ビワイチ(琵琶湖一周サイクリング)」では、日本一の湖である琵琶湖を活用し、その周りをサイクリングしながら滋賀県の魅力(各自治体の魅力)を伝える取組をしている。県が主体となって各市町村に派生させる取組は全国でも珍しく、そこに至った経緯、狙い、市町村との連携の在り方、関係性について参考にさせていただくため。		
岡崎市の現状と課題	愛知県との連携は様々な分野でなされているものの、観光行政においては一体的な大きな流れをつくるのが課題となっている。県との連携の在り方について、今後は模索することも視野に入れてゆく必要がある。		

1 調査項目

「ビワイチ(琵琶湖一周サイクリング)」の調査について

2 質問事項

- ① ビワイチ条例について(各自治体における取扱を含む)
- ② 自転車用道路の整備について
- ③ 自転車コースの整備状況について
- ④ 滋賀プラス・サイクル推進協議会について
- ⑤ ビワイチアプリについて
- ⑥ 同プロジェクトに対する市民の声について
- ⑦ 現在の課題、今後の展開について



【滋賀県庁にて】

3 視察目的

滋賀県では、日本一の湖である琵琶湖を自転車で一周しながらまちの魅力を伝える「ビワイチ」という取組を推進している。この取組をより推進するために、平成28年2月26日に「自転車を利用した観光の推進等」に係る条例改正を行った。

以下、条例内容

「第 19 条 県は、自転車の安全で適正な利用を促進し、自転車の特性を最大限に活用した環境への負荷の低減等の環境の保全またはあらたな旅行分野の開拓等の観光の振興を図るため、自転車を利用して琵琶湖を一周すること等により、観光旅客が琵琶湖の周囲をはじめとした県内各地に存する観光地を一体的に来訪することができる取組を推進するものとする。」

琵琶湖を活用した観光推進のため、県が条例まで制定並びに改定し、推進されている全国でも珍しい取組であるため、その調査を行う。

4 ビワイチとは

ビワイチは日本最大の湖「琵琶湖」を反時計回りに一周する約200kmのサイクリングコースのことです。走り慣れた人なら一日で走れる距離ですが、おすすめは2～3日かけて観光や食事を楽しむビワイチです。一周完全走破だけでなく、琵琶湖大橋の北側(約150km)だけや南側(約50km)だけ、さらには船を組み合わせてショートカットすることもできるコースのことです。(HP より抜粋)

【条例制定日】 令和4年3月25日(令和4年4月に施行)

【 担 当 】 部局名:商工観光労働部 所属名:観光振興局

担当名:ビワイチ推進室

- 【条例内容】
- ① 目的(第1条)
 - ② 基本理念(第3条)
 - ③ 県の責務等(第4条～第8条)
 - ④ 連携協力(第9条～第10条)
 - ⑤ 基本方針(第11条)
 - ⑥ 基本的施策(第12条～第19条)
 - ⑦ その他(第20条～第23条)・付則

5 ビワイチ施策の推進について(質問事項①)

(1) ビワイチ条例の制定

・滋賀県が誇る観光資源であるビワイチの魅力を高めるため、本県の観光の振興及び活力ある地域社会の実現に寄与することを目的とする条例のこと。

(2) 「ビワイチの日」および「ビワイチ週間」の設定

・県民、ビワイチ関係事業者、ビワイチ推進関係団体の間に広くビワイチについての関心と理解を深めるとともに、ビワイチへの意欲を高め、愛着と誇りを育むため、ビワイチの日(11/3)およびビワイチ週間(11/3～11/9)を設けている。

(3) ビワイチ推進基本方針の策定

・条例基本計画の実現に向け、ビワイチ推進施策を総合的かつ計画的に推進するため策定された。(令和4年11月)

地域を代表する観光ブランドの一つとして「ビワイチ」の取組を加速化し、国をはじめ市町、県民、関係事業者・団体等の多様な主体とこれまで以上に連携しながら、本県の観光振興を図り、活力ある地域づくりを進めると共に、世界から選ばれるサイクルツーリズムの展開を目指し、県民の皆様と取組を進めることが策定の目的となっている。

(4) 推進体制強化について(質問事項④)

①官民プラットフォームの活用

ビワイチ推進施策は、国、市町、関係事業者、関係団体との連携・協力が不可欠となっている。そのプラットフォーム機能を「滋賀プラス・サイクル推進協議会」が担い、取組を活性化している。

②国内外の自治体との連携

ナショナルサイクルルートが所在する自治体との連携や、海外自治体との交流を通じた魅力発信により国内外からの誘客を促進。

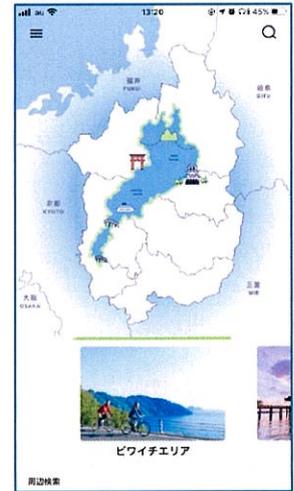
※令和元年11月に国から「ナショナルサイクルルート」の指定を受けている。

※オーストリアとの交流事業で、ルートの一部を「ブルゲンラント・ロード」と命名。

6 ビワイチ促進のためのアプリケーションについて(質問事項⑤)

(1) 「ビワイチサイクリングナビ」

滋賀県が提供するサイクリング専用アプリ『BIWAICHI Cycling Navi(ビワイチサイクリングナビ)』は、ビワイチ用コースと各エリアのサイクリングコースを見て、実際にナビゲーションすることができる。また、アプリのトップ画面に滋賀県を構成する7つの地域と、地域ごとの紹介タブが表示され、画像下部の「ビワイチエリア」をクリックすると滋賀県公認の複数のルートをマップ付きで確認できる。



(2) 「初心者、上級者でコース選択が可能」

初級から上級までレベルごとに設定されているルートもあり、自分の体調と相談してコースを決めることができる。ルートマップを見るには、コースを選択したあと、ルートの詳細ページの最下部にある「このサイクリングルートを守る」をタップし、「ルート作成」に進むと現在地からスタートするコースを確認できる。



7 道路環境整備(ルート整備の考え方)(質問事項②)

(1)初級・中級者(家族連れ)と、上級者(アスリートなど)対象の2ルートが設定。

- ・初級・中級者向け→「低速コース(ナショナルサイクルルート)」:全長 196km
- ・上級者向け→「上級コース」:全長 187km

(2)案内看板・路面表示の設定について(質問事項③)

- ・ルート全線で青破線の路面標示によるルート案内
- ・看板・路面標示の設置
- ・主要施設までの距離を示す案内設置
- ・距離標は終点までの距離を 5kmごとに設置
- ・看板や路面標示は日英2か国語表記やピクトグラム化

8 同プロジェクトに対する市民の声・感想について(質問事項⑥)

(1)アンケート結果(泊数)

R5 日帰り:71% 1泊2日:18% 2泊3日:9% 3泊4日:2%

R6 日帰り:56% 1泊2日:28% 2泊3日:15% 3泊4日:2%

※宿泊の割合が全体で見ると(R5)29%→(R6)44%に増加

※ビワイチ利用者の観光誘致に年々結びついている

(2)「ビワイチサイクリングナビ」アプリ利用者による調査

・体験者の居住地が把握できる

(3)アプリケーションダウンロード数

・R7年3月末日時点にて70,659件

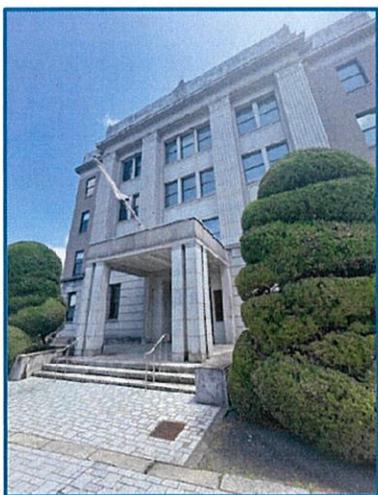
・男性:83% ・女性17%

・30代後半～40代前半の方が最もダウンロードしている

9 現在の課題、今後の展開について(質問事項⑦)

ビワイチの成り立ちは、自然発生的な地元県民の意識から生まれている。この意識が各自治体とも共有できており、滋賀県並びに市町村が連携して動き出している。今後はサイクリングロードの整備をさらに進めると共に、より一層、観光客の誘致に努める。

10 滋賀県庁並びに議場について



【滋賀県庁(滋賀県議会)】



【議場】



【議場にて】

11 視察を通しての所感

滋賀県が先頭に立ち、「ビワイチ」の推進に取り組まれている点が画期的でした。市町村との連携においては「滋賀プラス・サイクル推進協議会」を通し、各自治体がそれぞれの市町で「ビワイチ」の魅力を高める取組を「自然発生的」に県にならって進められている点が素晴らしいと感じました。

また、ビワイチアプリをダウンロードし実際に使ってみました。サイクリングロードだけでなく、歴史遺産や観光名所、グルメスポット、宿泊先まで、このアプリ一つで網羅できる点も考えられていると感じました。(蜂須賀一郎)

【同行者の所感】

加藤議員：滋賀県は、地方創生の一環として「ビワイチ推進条例」を令和3年4月に特別委員会を立ち上げ令和4年3月議会にて委員会審査、議決している。

ビワイチとは「琵琶湖1周」の意味で自転車、バイク、車、鉄道、ランニングなどの手段がある。

条例制定の背景としては、H13年に、ぐるっとびわ湖サイクルライン(193 km)の選定、H29年に、「ビワイチ推進室」の設置、H30年「ビワイチ推進総合ビジョン」策定、令和元年、ナショナルサイクルルートに指定➡これを好機ととらえてビワイチをブランド化して地方創生に活用するため。

ビワイチの取り組みの成果としては、コロナ以降の令和5年の体験者が最高の12万8千人、令和6年が微減の11万9千人であるが、宿泊の割合が29%から44%と伸びており、それなりの成果が上がっている。魅力向上と創出のための取り組みとして様々な体験会等実施しており、官民連携の強化とさらなる環境整備、市町村の連携により、さらに認知度も増加し、観光客も増えるであろう。

荻野議員：ビワイチ推進条例は、琵琶湖一周すること又は琵琶湖その他県内の観光地、景勝地などを自転車、バイク、ランニング、車などを利用して周遊することで県域全体の観光振興及び地域の間成果が図られることを目的に県条例として制定された。

この条例では、国、県、市町、県民、ビワイチ関係事業者、推進関係団体の役割分担及び連携が確保されており、県としての方向性が明確となっている。

県を中心として多くの市町が関わり協働して地域を盛り上げるものであり、宿泊者の割合が増加したり、利用年齢が20代後半から50代前半全体の半数以上となっている。

多くのコースが設定されており、初心者から上級者まで幅広い年齢層の利用が可能である。

本市においても、サイクルシェアなど行っているが、まだ、自転車専用道路などの整備が不十分であり、今後は、ハードの整備と共に目的地の整備など進めていく必要があると感じた。

政務活動視察報告書

報告者：荻野秀範

視察日	5月8日
視察内容	八代観光DMOについて
視察者	加藤義幸・荻野秀範・蜂須賀一郎

（八代市の概要）

人口 119,259 人、面積は約 681 km²（平成 17 年に 1 市 2 町 3 村が合併）

主要観光地は比奈久温泉・八代城址、主要イベントとしては、やつしろ全国花火競技会、八代妙見祭などがあり、年間の観光客数は 225 万人（内日帰り客数 197 万人）、宿泊者数は約 28 万人となっている。



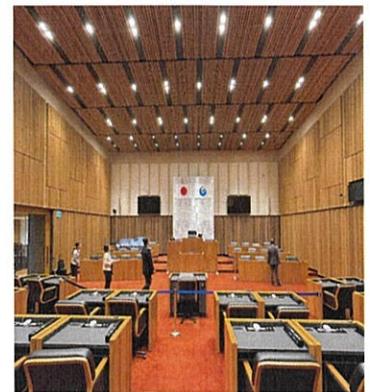
【DMO やつしろの概要について】

平成 28 年 3 月 1 日に設立され、平成 29 年 11 月 28 日に登録された。

職員数は 11 名「常勤 11 名（正職員 9 名・出向 2 名）」で構成されている。

役員の中に旅行業取扱責任者（3 種）が所属している
連携する主な事業者は、熊本県・八代市・八代商工会・JA・漁協・旅館組合・スポーツ協会・熊本県観光連盟などが連携している。

実施体制としては、八代副市長が代表となる理事会と観光振興部会・物産振興部会で構成され、一般会員として観光分野、物産分野 104 事業者が登録されている。



プロジェクトの概要

観光地域づくりを行う舵取り役となる観光地域づくり法人として組織された
設立当時、①人口減少・少子高齢化②国内観光客の旅行目的の多様化③インバウンド需要の増加などがあり、「大きく変化しているマーケットに柔軟かつ的確な対応」が課題として挙げられ、「地域の稼ぐ力を引き出す、明確なコンセプトを持った観光地づくりに取り組むことが重要」としている。

財源としては、事業収入が約 2 割、受託料収入が約 6 割、補助金収入が約 2 割となっている。

取り組みとしては、クルーズ船受け入れ関連事業、観光マーケティング調査、物産連携振興事業、観光案内所運営、観光物産展開催など多くの事業を開催、観光産業への経済効果としては、2020 年に国・県・民間の官民連携により「くまモンポート八代」が整備されクルーズ船の受け入れを行っている。
2024 年には 32 隻が寄港し、2 億 3 千万円を見込んでいるとのことであった。



現在の問題

- ① 受託事業や補助金の額が年度ごとに異なる為、安定的な運営資金の確保
- ② DMO をリードしていく中核人材の不足（人材育成の仕組みが構築できていない）
- ③ イベントなどでマンパワー不足

今後の展開

① 財源の安定確保

- ・市との連携強化（市の支援による人件費の確保、事業の受託推進）
- ・新規事業の推進、検討（ふるさとの納税の活用）

② 人材確保・育成、業務の見直し

- ・外部機関を活用した研修の実施、講演会等への積極的参加
- ・業務の効率化推進
- ・対外的なアピールによる中核人材の確保推進



《意見・所感等》

DMO やつしろは、これまでの行政主体の地域観光事業の流れを変え、観光地域づくりの司令塔として設置されている。

本市との大きな違いは、交通事業者、文化財、農林業、地域住民などすべての業種においてが関係機関として主体的に参画しており、体制を構築している。

本市においても、観光協会のみでなく多くの業種で組織する必要があり、地域住民の理解を得るような組織づくりを検討が必要であると考え



【所 感】

加藤議員

一般社団法人 DMO やつしろは、官民一体で観光を中心とした地域づくりをめざす任意団体「八代よかこ宣伝隊」を発展的に解散、平成 28 年 3 月 1 日に設立。熊本県、八代市、八代商工会議所・商工会、JA、漁協、旅館組合、スポーツ協会、熊本県観光連盟等と連携している。

主な取り組みとして、①日奈久周遊事業②観光マーケティング調査③地元での物産展開催④クルーズ船受入関連事業⑤観光案内所運営事業⑥やつしろ全国花火競技大会関連事業⑦観光物産展開催事業⑧日本遺産周遊コンテンツ造成事業等を手掛けている。地元ビジネスとの連携、地元住民、中学校等との連携がしっかりとれている。

課題は、財源不足、人材不足などで、今後は、財源の安定確保、市との連携強化、人材の確保育成を目指していく。

本市においても、令和 6 年 3 月に観光 DMO 登録しているのでこれを機に観光の振興に寄与できる企業展開することを要望する。

蜂須賀議員

「八代 DMO 観光」についてお伺いした。DMO とは、Destination Marketing Organization の略であり、「目的地(地域)」を「マーケティング」しながら「経営」する「組織」という意味である。設立経緯は「地域の稼ぐ力を引き出す明確なコンセプトをもった観光地域づくり」を目指したことがきっかけで「人口減少・少子高齢化」、「国内観光客の旅行目的の多様化」「インバウンド需要の増加」に対応するためである。

八代市の特徴は、2017 年 1 月に「官民連携による国際クルーズ拠点」として全国 6 港のうちの 1 つに指定された八代港に、年間 66 隻を超える 16 万トン級のクルーズ船

の受入れを行っている。八代港の目の前には「くまもんポート八代」という施設で外国人客のもてなすことができる。くまもんポート八代には、「日本庭園」「竹林の道」「多目的芝生ゾーン」そしてメインの「おもてなしゾーン(販売エリア)」があり、外国人客が買い物や日本の文化に触れられるような対応が整えられている。

また、国内向けとしては、日奈久温泉を活用した旅館街の利用促進並びにサイクリングツーリズムの実施。さらに、季節に応じた体験イベントに力を入れることで観光促進に繋がられていることがよく理解できた。

政務活動視察報告書

報告者：加藤 義幸

視察日	令和7年5月9日
視察内容	鹿児島県霧島市：霧島市こども館事業について
視察者	加藤義幸・荻野秀範

《霧島市の概要》

県のほぼ中央部に位置し、北部には霧島山を有し、南部は広大な平野部が鹿児島湾に面する県下第2の都市。鹿児島空港、九州縦貫・東九州自動車道などの高速交通体系が整備され、国分隼人テクノポリスには先端産業の事業所が集積。農業は肉用牛、養鶏の比重が大きく、きりしま茶、サトイモ、白菜などの生産は県内有数。黒酢や焼酎メーカーも多い。

2005年11月7日に、1市6町が合併し誕生。



《整備目的・概要》

霧島市こども館は、子育て環境の充実や遊びの体験を通じて子どもの幼児期における基礎体力を向上させ、発想力及び想像力を育成し、その健全な成長を図ることを目的に設置。

場所の選定については、市民アンケート調査を踏まえ、既存施設の利活用の観点も含めた上で検討を重ね、既存施設である国分ハイテク展望台を有効活用することとした。また、同展望台の屋内を改修して遊具等を整備するとともに、展望台の機能を3階部分に残し、子育て世帯だけでなく様々な人が集える施設とした。

整備費用は、

令和元年度	改修工事設計業務委託	3,465千円
令和2年度	改修工事請負費（建築、空調衛生設備、電気設備）	93,529千円
	工事管理業務委託	2,090千円
	屋内遊具整備業務委託（プロポーザル 令和3年度へ繰越）	39,600千円
	屋内遊具整備業務委託（プロポーザル 令和3年度へ繰越）	39,952千円
令和3年度	屋外木質休憩所整備業務委託（プロポーザル）	5,000千円
	合計	183,636千円

運営費は業務委託で令和6年度予算は40,000千円

《こども館》

所在地 霧島市国分上野原テクノパーク 2-1

愛称 すかいぴあ（全国から応募のあった111点から選ばれた作品）

開館時間 9:30～17:00（12:30～13:30は消毒、清掃、遊具点検のため利用不可）

休館日 毎週火曜日（祝日の場合はよく平日が休館日）及び12月29日～1月3日

入館料 市内・市外問わず無料

施設面積

建築面積 590.89㎡ 延床面積 769.16㎡

1階 遊戯室（ハイハイ・よちよちルーム）52.69㎡、テラス62.0㎡
レストラン131.54㎡（厨房含）

2階 遊戯室（からだ・うんどうルーム）65.32㎡（えほん・ちいくルーム）65.32㎡

3階 展望・休憩スペース101.46㎡

敷地面積 15,848.70㎡

令和3年7月16日（金）開館

《利用状況》

	合計	市内	市外	新規	登録済
令和3年度	21,982人	7,902人	14,080人		
令和4年度	32,866人	17,215人	15,651人	14,640人	18,226人
令和5年度	34,971人	18,189人	16,782人	12,323人	22,648人
令和6年度	29,906人	14,907人	14,999人	9,668人	20,238人



《意見・所感等》

霧島市こども館は、計画当初、市役所に近い国分と、上野原の2地区が候補に上がったようだが、最終的に上野原に決定したようだ

この地は、高台に位置し眺めも良く、子育て中の家族のみならず、高齢の方も親しめる場所であると感じた。近くには上野原遺跡、上野原縄文の森、県立埋蔵文化センターなどがあり小中学生の学びの場として活用しており、子どもたちが自然と分散できて、混雑を回避出来ている所も良いことである。

又、1階にレストランが営業しているが、こども館を訪れる人だかを相手にするのでは営業が立ちいかなくなると思うが、テクノパーク内にある多くの工場の弁当として平日も忙しく営業しているところも一石二鳥と感じた。今後の箱物は、様々な需要を掘り起こすことも重要であると感じた。

【同行者の所感】

荻野議員

こども館は、子育て環境の充実や、遊びの体験を通じて子供の幼児期における基礎体力を向上させ、こどもの発想力及び想像力を育成し、健全な成長を図ることを目的に令和3年に開館している。

施設は、こども館設置検討委員会で議論され、既存施設を有効利用されている。

市内からは20分程度かかり、山頂の展望台が活用されており、景色などは最高の場所であった。

注目すべきことは、市内より市外の入館者が多いことと、鹿児島県以外の北は北海道、南は沖縄まで日本全国や海外の入館者が6年度実績で約3千人あることに驚きを感じた、また、リピート率が約70%と高い状況であった。

施設は3階建てであるが、年齢により階が分かれており、年齢差が少ないため親としては安心して遊ばせることができるのではとの話であった。

職員は保育資格の方が常駐しており、その点も受け入れられている点であろうと思う。

また、森林環境税を利用し木製の屋外遊具が設置されていた。

本市も画一的な施設とせず特徴的な子どもの広場とする必要を感じた。